



FUCHU



3年ぶりの支部総会を開催しました！

次回は令和5年5月27日土曜日です

府中高校同窓生、関係者の皆様お変わりございませんか。

東京支部は、令和4年5月28日、学士会館にて、3年ぶりの支部総会・懇親会を開催致しました。（出席者は83名）

3年間当番年次を担ってくださった61年卒の皆さん。準備をしてはコロナによって開催見送りとなり、本当に長い長い間ありがとうございました。

withコロナで開催できる方法を検討した結果、着座、短時間、アルコールなしという新しいスタイルを生み出し、会の継続に希望が持てました。

次の東京総会・懇親会は、令和5年です。

日時：令和5年5月27日土曜日 14時～

場所：神田神保町 学士会館

会費：5,000円（アトラクション・アルコールあり）

※学生、介護者、同伴のお子さまは会費無料です。





映画やドラマのロケ場所でも知られる学士会館の大会議室で開催



受付は昭和60～61年卒が担当



受付 済みました！



受付の後、会場へ。通信連絡賛助金の受付が待っています。



通信連絡賛助金の受付は52年卒
3年ぶりで腕が鳴る鳴る(^o^)



一杯目のドリンク選んでいた
だき、チケットをお渡し



ホスト役のスタッフは
赤Tシャツを着用



平成13年卒 ヒラノトシユキさん
がイラストを担当した府中ガイド



57年卒 着席



宮崎支部長 中山幹事長 今川副
支部長 殿元副支部長 乾杯の発声



ソフトドリンクで乾杯



飲食と写真撮影時以外はマスク着用



撮影ありがとうございます



母校の今を紹介



故郷のお菓子を添えました



当番お疲れ様でした61年卒



来年よろしく62年卒

令和4年総会・懇親会を終えて ～府中の絆～



今年は3年ぶりに、総会・懇親会を開催することができました。準備してきたメンバーは元より、久しぶりの開催を楽しみに参加された皆様が事前に感染対策に取り組み、参加いただけたからこそと思います。ありがとうございました。

当初、府中高校同窓会東京支部の存在すら知らない私に当番年次が務まるのだろうかと不安で一杯でした。そんな時不安を払拭してくれたのは、カープ同好会への参加でした。同窓の先輩・後輩と一体になって、地元広島カープを応援できたことに今までにない喜びを感じ、府中から約800キロ離れた東京の地にリトル府中が存在するような気分でした。この時先輩達が築いてくださった「府中の絆」を繋いでいかなければと思いました。

しかし、コロナ感染が拡大し延期を余儀なくされました。このままでは府中の絆が途切れてしまう。府中の同窓生ならきっと安心安全の開催を実現可能にできるはず。そんな思いから何とかwithコロナでの開催を実現することができました。ここでもさらに皆様の結束力「府中の絆」の強さを感じずにはいられませんでした。

今回3年間当番年次をさせていただいたことで「府中の絆」を強く感じる機会をいただきました。またコロナで人と会う機会が減っている今だからこそ、この絆を繋いでいくことに少しでも尽力できればと思います。

昭和61年卒 田辺真弓

令和4年度 東京支部総会 出席者一覧 (卒業年毎 順不同 敬称略 (かっこ内は旧姓))

29年卒 宮原 是中	47年卒 今川 修吉 影山 修一 藤原 善充 大浦 敬之	51年卒 佐藤 宏一 中山 幹彦 中山ひとみ 松岡 信宏	56年卒 藤井 康雄 藤井 泉絵 (殿元) 中畠 真治 佐々木 博章 飯田 泰弘	58年卒 加藤 雅子 (瀬尾) 59年卒 入江 正徳	村田 和枝 (川上) 齋川 陽子 (伊野木) 高橋 章仁 川本 ゆかり 山本 清志 石黒 貴志 長 真由美 (重田) 佐藤 充訓	H06年卒 関藤 由英 H15年卒 岩岡 隆之 平野 利幸 皿田 修一
40年卒 小原 匡世 木村 茂治 寺岡 暉人 錦古里 素子 (佐藤) 鴨田 幸信	48年卒 田部 啓治 黒河 宏之 田中 義正 49年卒 殿元 清司 平川 正志 本宮 正暁 宮坂 初恵 (福地)	52年卒 亀山 澄美 (菊岡) 滝口 洋子 (中山) 矢倉 靖子 (佐々田)	57年卒 渡邊 俊之 長谷川 陽一 飯田 美雪 (近藤) 皿田 泰二 高尾 尚志 神部 育也 松田 吉紀 牧山 裕子 (重政) 鎌田 純子 (中尾) 川口 千恵子 (松本) 舩元 仁志	60年卒 今田 浩明 尾間 えみ (三船) 河田 克也 徳永 智士 村田 令子 (掛江) 矢部 輝美 61年卒 宮井 裕子 (和田) 高橋 弘一郎 田辺 真弓 長澄 和延 立石 梨恵	62年卒 鎌倉 靖夫 H01年卒 松原 佳子 (棗田) 白須 慶子 (杉本) 中山 敦司 H03年卒 田辺 智也	川本 真理奈 (川本さんのお嬢様)
42年卒 川部 武郎	50年卒 小田 昌一 野村 祥子 (福田) 能宗 克行 宮崎 賢二	53年卒 菊地 真由美 (桐島) 江草 稔 55年卒 小野 恵美 (柴床) 村田 仁美 (檜崎)				
44年卒 宮崎 孝直 掛江 実						
46年卒 佐藤 信之						

同窓生エッセイ (日々の暮らしや、人生をふり返って・・・)

昭和29年卒 森信 節子

最近80歳代後半というのは何かにつけて介護者を必要とする年代なのかなあと思うことが多くなった。私は87歳で独り住まいだが、誰かに介護のお世話になることもなく日常の事は自分でこなせている。しかし、時には健康診断ばかりでなく、体に不具合の事も起きて、病院で受診することもある。診察を受けるとき診察してくれたお医者さんは必ず「付き添いの方は？」と聞いてくる。何となく私の理解度を疑われた気もして、「独り暮らしですから付き添うものはおりませんが、説明していただければ理解できると思います。」とかわいくない返事をすることになる。

ところが先日、この対応とは全く違う体験をした。加齢による目の病気で手術するよりほかに治す方法がない。手術後1週間は入院が必要とのことであったが、この医師の対応が今までの病院とは違っていた。パソコンの画像を見せながらの説明がとても丁寧でよくわかったし、付き添いの方はという言葉は一言もなかった。術後1週間、退院する時にたった一言「お迎えの方がいないならば、目の手術後ですからくれぐれも注意して転ばないようにしてください。」と言われただけである。年寄り扱いでなく普通に扱ってもらえた気がして嬉しくもあったし、この病院にして良かったと思ったものである。

年を取ってくれば理解も遅くなり、スマホの扱いにしても戸惑うことは多い。でも何とか努力してついてゆきたいと思う年寄りです。

同窓生エッセイ (日々の暮らしや、人生をふり返って・・・)

「生き方に影響を与えた出来事」

昭和57年卒 宮下律江 (旧姓：出原)

人生において、誰しも「ターニングポイント」が訪れる機会があると思います。私にとって大きなターニングポイントになったのは、府中高校の2年生でアメリカに留学をしたことです。

日本の代表的な留学協会のプログラムでの参加とはいえ、周りに日本人が1人もおらず、日本語が全く通じない環境の中で、1年間ホストファミリーと暮らして学校に通学することは精神的に相当鍛えられました。

そのおかげで、どんなに大変な状況や環境でも自立して切り開いていく精神力や、異文化や様々な人の多様性を自然に受け入れる感性、常に自分の考えを持ち話す事、そして生きている英語が身につき、それ以降の人生で大きく活かされました。



しかしながら、これだけの人生を左右するような貴重な経験をさせてもらった背景には親と府中高校の先生方の理解やご支援なくしては成り立ちませんでした。

当時1980年代は、留学生が銃で撃たれる事件が頻発するなどアメリカ国内で生活することへの安全性に問題があり、しかも府中高校からの留学は初めてで、授業の単位を振替る制度はないですし、休学することと同じで学んだことの継続性は保てるのか、復学後、アメリカという自由奔放な国の慣習を持ち込み、校風を乱す事になるのではないかなど、最初学校側は戸惑いと難色を示していました。

そのような中でも当時の担任の丸橋先生(数学担当)は、私のことを信用してくださり、私の気持ちを確かめながら、何度も私の親とも話し合いを重ね、お忙しい先生に厄介な仕事を増やすことになってしまいましたが、一度も否定的なことはおっしゃらず、学校側を説得してくださいました。

丸橋先生は足が不自由で、特殊な装備の車を運転して、学校が終わった後、夜に私の家にまで来てくださったことを今でも思い出します。

真摯に対応してくださった先生の姿をみていましたので、ご尽力を無駄にしないように、アメリカに行っても日本の高校の規律は守ろうと思い、一切髪をそめることもピアスをつけることもしませんでした。

留学から帰国後、高校には2年生のまま復学、学年は1つ下がることになりましたが、新たな級友も先生も異端児の私を色眼鏡で見ることもなく受け入れてくださり、自然に府中高校の生活に溶け込むことができました。

「初めてのことをやる」ことに対し、もし先生が受け入れて対応してくださらなかったら、また学校側がリスクをとって許可をしていただけなかったら、今の私のキャリア形成はなかったです。

私の人生を大きく変える経験をさせてもらえて府中高校と先生、心より感謝をしています。

同窓生エッセイ (日々の暮らしや、人生をふり返って・・・)

「声は人なり ことばは心なり」 昭和60年卒 尾間えみ (旧姓：三船)

二十歳になる前に父の転勤で名残を惜しみながら府中を離れ、関東に住まい早30年以上経ちますが、府中の思い出が色濃いのは、小中高校生の約12年という多感な子ども時代を過ごせたおかげ。府中は心の故郷です。

盆地の山あいから立ち昇る霧がひんやり感じられた朝の登校時。梅雨の時期は蒸し暑く、汗ばみながら歩く山道を時おり吹き抜ける風にのって樹々の葉がにおい、疲れを癒してくれました。

幼少期から私は気管支が弱く、肺炎で入院したことも数回あり、時代が戦前であれば命はあぶなかったかもと親から聞かされました。でも府中の山のすぐそばに住んで、良い環境に育ったおかげ、それに毎朝愛犬と走っていたことが体力をつけてくれました。

・・・とはいえ、小学4年生まで医者からプールに入ることは止められていたので、体育の見学は退屈でしたし、年に4、5回、夏休みにも咳こみ、高熱でダウンすることがありました。そんな小学生時代にさかのぼります。

なんの授業だったか、小学低学年のある日、担任が出張して不在だったので教頭先生が教室に入り「おはなしが始まるけえ、目をつぶって」と。静かな教室に「むか～し、むかし あるところに～」・・・たぬきやきつねがでてくる昔話は先生の創作話かもしれないですが、自分の頭でイメージするうちにおはなしが自由に繰り広げられる楽しみにわくわくしました。それは絵本ではなく目を閉じて先生の話だけをただ聴くことでした。先生のおはなしが終わったあともしばらく余韻に浸りながら下校したのを思い出します。

どんなに運動好きで元気な友達も、人前で喋るのが苦手なおとなしい友達も、熱を出しやすい私も、だれにとっても「想像の世界」では、誰かと比較される遠慮や引け目を感じることはありません。どこまでも自由です！。おはなしの中では、背が伸び雲を突き抜けてしまうこともあり、空を飛び続けたり、湖の中にネコの家があったり、たった一人で冒険していることもあります。そこに正解も間違いも点数もない！おはなしが終わった余韻、達成感や幸福感に満たされます。教頭先生のおはなしを次はいつ聴けるのだろう!?とわくわくしていたのでした。

その日のおはなしの出典本。

実際には見ないで語っていますが学校では図書館で借りられることを紹介しています。



「風の神と子ども」

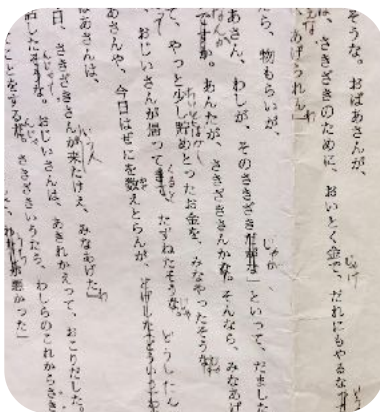
新潟で語り継がれたおはなし。
風の兄どんのしっぽに乗せてもらい、天に舞い こうこうと飛んで・・・
ごおーっとひと風吹かせ、ぱたぱた梨やら柿やら栗を落としてくれて、子ども達の喜んだのなんの！・・・
語り手も聞き手も皆一緒に想像の世界に。

それから何年も経て、大学で児童文学を学ぶ機会もあり、やがて結婚し3人の娘に恵まれ、近隣の小学校に絵本を読みにいこう、と保護者の読み聞かせサークルを発足し学校に交渉し、一時間目授業が始まる前15分いただき絵本の読み聞かせに行くことになりました。絵本の文字を追って、美しい絵を見せて読み進めるのももちろん楽しいことです。が、あの教頭先生のおはなしのように自分の頭の中で想像する世界をやっぱり描きたい！子どもたちに語りたい！と。

運よく「素話」（すばなし）を勉強する会に出会うことができ、師匠の平塚ミヨさん（石井ももこさん、松岡享子さんと活動を共にされてきた方です）に師事しました。これと決めた作品を何度も音読して暗記し、おはなしが自分の中に入ったら 大人や子どもに聞いてもらいます。現在も日本や外国の昔話、グリムの話、創作の話などを仲間と聞き合い、語り合い、学び合っています。そして、会の仲間と一緒に世田谷区や調布市の小学校5校の授業でおはなし会をさせていただいています。

卒業間近の6年生に冬のおはなし会をした時は、担任から「6年間子どもたちは素話を聞いて、想像する世界をいつもわくわく楽しみにしていました。言葉の美しさ、力強さはこれからの子どもの生きる力になっていきます。」とお礼をおっしゃっていただいたこと、子どもたちとハイタッチをしてお別れした日を、今思い出しても胸が熱くなります。現職は地域のNPO団体で産前産後のお母さんのサポート、相談対応したり、専門機関につなぐ、小学生の放課後学習サポート等をしていますが、コロナ禍にあっても・・・いえ、だからこそなのかもしれませんが、素話の会は続き、今も時々、出張おはなし会に学校を訪問することがこのうえない楽しみです。

師匠の言葉「声は人なり ことばは心なり」を胸に、活動は20年目をむかえます



「さきざきさん」

岡山や鳥取に伝わるおはなし。
口承されてきたお話は、聞いた
人が自分の言葉で語ってよく
て、私は広島弁（懐かしい備後
弁）で語っています。



「小石投げの名人 タオ・カム」ラオスのおはなし

足が不自由なタオ・カムは、地面に落ちている小石をつまんで投げることを覚え、大きな木の葉めがけて命中できるようになり、動物の形にくりぬかれるほど上達する。日の光が差すと、葉が風に揺れ、動物のかげも揺れる。通りかかった王様が感心してしまう。

王様がタオ・カムを宮殿に連れていき、タオ・カムにお願いしたことは……。タオ・カムと同年の4、5年生に語っています。

通信連絡賛助金について（お願い）

平成19年（2007年）から発行を始めた東京支部会報は、今年で16号となりました。

会報を発行する以前、東京支部では年に1度の総会・懇親会の出席者から頂く会費の中から、総会費用（会場費・飲食費・通信連絡費・ゲストへの謝礼）と支部運営経費を賄って参りました。

そのため、通常の宴席と違い飲食部分に充てられるのは頂いた会費の5割程度でしかなく、出席者の満足感を得にくい状況でした。

そこで、まず会報を発行し、支部の活動や会員の方々の近況をご紹介することにより、東京支部を身近に感じて頂けるようにし、その会報を「購読して頂く」という意味で、あるいは東京支部の各種活動への賛助の意味で、任意で「通信連絡賛助金」という制度を設けました。

おかげさまではや15年以上、毎年150名近くの方から30万円近くの賛助金を頂戴しています。

趣旨にご賛同頂けましたら、次の2つの方法のうちいずれかでお願い致します。

お一人様 一口1000円/年（何口でも可）です。

今年1月からゆうちょ銀行のルールが変更されたため窓口での払込手数料が大幅に値上がりしましたので、払込手数料のご負担を軽減する為に、受取人払い（加入者負担）に変更致します。これによって、払込用紙の枠線が青色から赤色に変わります。

詳細は同封の「通信連絡賛助金の払込手数料について」をご参照下さい。

1.同封のゆうちょ銀行の払込用紙をお使い頂き、支部の口座へお振り込み

2.払込用紙が無い場合（↓こちらが口座です）

ゆうちょ銀行

口座番号00280 1 82136

名義:広島県立府中高等学校同窓会東京支部

※お名前・ご連絡先・卒業年をお忘れなくお書き下さい。

どうか末永くのご支援をお願い致します。

令和3年度 通信連絡賛助金を頂いた皆様

今回から、支部の会計年度（令和3年4月から令和4年3月末）に合わせてご紹介する事にしました。

※敬称略、卒業年順、卒年内順不同、（旧姓）

20年卒 橘高 大典 和田 祐一	35年卒 小川 英光 金平 洋子 (武田)	寺岡 暉人 都丸 元恵 (山本)	西村 文子 藤広 信良 宮崎 孝直	48年卒 東 千明 (小田)	河原 雅彦 神谷 達也 高井 信子 (稲垣)	田邊 禎二 渡辺 俊之
21年卒 大山 寿	高橋 通央 東田 喜輔	錦古里素子 数本 達雄 山村 民枝 (鎌倉)	宮崎 千代子 (松坂)	田部 啓治	高尾 幸江 谷本 磨諭子	58年卒 名越 美保 (山口)
25年卒 道田 懐蔵	36年卒 坂本 和子	品川 裕明 宮本 武則 萩原 洋子 (木下)	門田 博文	49年卒 石岡 義章 岡本 光正 殿元 清司	原田 実能 藤井 一将 三藤 裕子 矢倉 靖子 (佐々田)	松葉 達憲
27年卒 助迫 邦利	37年卒 神谷 俊男 香山 拓子 (瀬尾)	41年卒 奥田 操 川部 武郎 木原 政子 原 美知子 (名和)	小川 修司 木村 久丹彦 君島 郁美 (橘高)	岡本 雅文 橋本 和嘉 藤原 初恵 (福地)	53年卒 多田 幸夫 宮 毅	60年卒 小林 香寿美 比羅岡 亮
29年卒 佐藤 詔三 田中 忠夫 宮原 是中	前川 雪子 (白井)	42年卒 奥田 操 川部 武郎 木原 政子 原 美知子 (名和)	高橋 宏 細川 修宏	目崎 一登 本宮 正暁	54年卒 平山 八広 山名 研司郎	61年卒 高橋 弘一郎 田辺 真弓
31年卒 重田 弘毅 為房 怜子 (高橋)	38年卒 佐藤 義雄 門田 満江	43年卒 松岡 ひろ子 (河面)	45年卒 小川 修司 木村 久丹彦 君島 郁美 (橘高)	50年卒 清水 和博 宮崎 賢二	51年卒 飯田 泰弘 永久 徹 藤井 康雄	H01年卒 松原 佳子
32年卒 紀本 直幸	39年卒 下 勝 松本 千恵子	44年卒 岩部 和記 近藤 宣行 (大元)	46年卒 佐藤 信之 杉山 鈴香 津田 雅子	52年卒 芥川 容子 (横山)	56年卒 石岡 裕子 (小川)	
34年卒 桑田 英樹	40年卒 植岡 宏三 鴨田 幸信 木村 茂治		47年卒 今川 修吉 影山 修一 鈴木 瑞恵 (藤井)		57年卒 神部 育也	

総会運営部門の構成変更についてのお知らせ

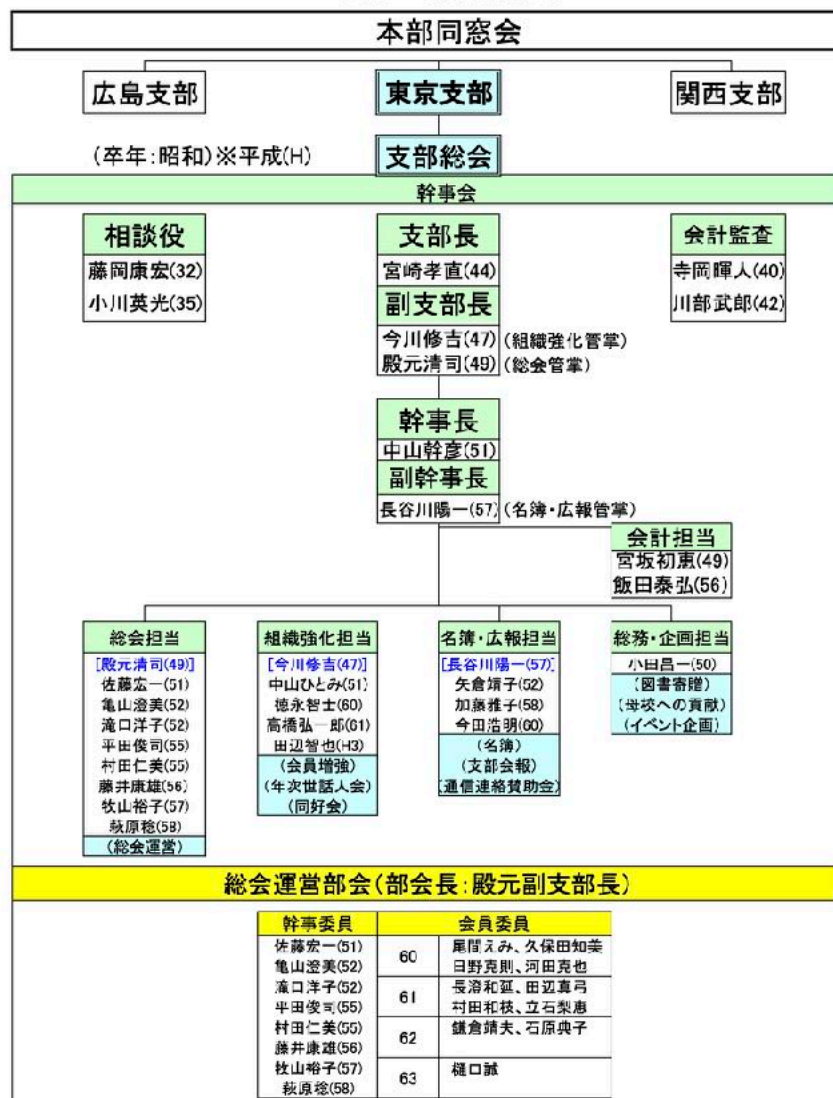
東京支部では本部や各支部と協力し会員名簿を管理更新していますが、昭和62年卒以降の会員数が極端に少ない状況です。あれこれ工夫をしておりますが、なかなかまとまって新会員は増えません。しかし当番年次になると一気にお互いの交流が増し、その後もお付き合いが永く続く傾向にあります。

同期が少ない卒業年次は、総会の1年・2年前の準備開始時点で人がおらず、なかなか活動ができません。そこで平成27年度の総会・懇親会から3学年の代表(下図の『会員委員』)と、総会担当幹事から成る総会運営部会が総会運営を担う形としました。早めに総会・懇親会の様子を知ってもらい、当番が終わった後もサポートしていただく事でスムーズな引継ぎが可能となります。

令和5年度の総会に向け、『会員委員』を昭和60年卒から63年卒までの4学年構成とし(昭和62年が主担当となります)当番年次の負担を減らし少人数で担えるように、総会運営部会や支部幹事会と実務の分担を行う事にしました。

広島県立府中高等学校同窓会東京支部

令和4年度組織図



母校への貢献について

東京支部の会則 第2条には、「本会は、会員の豊かな未来を願い、相互の親睦を図り、併せて本部及び各支部との連絡を密にし、母校と郷里の進展に寄与することを目的とする」と記されています。

平成21年（2009年）から平成23年（2011年）にかけて、当時の藤岡支部長（現 相談役 昭和32年卒）が支部組織の強化を掲げられ、その手始めとして会則の見直しが行われました。

藤岡支部長は、長く北海道で勤務され全く高校同窓会とは縁なく過ごされていましたが、東京に戻られ同期の皆さんとの交友が始まり、それはそれはとても楽しく過ごす事ができたことから「会員自身の豊かな未来」と、「母校や郷里への貢献」と記されたのだと推察致します。

母校・郷里から離れている東京支部だからこそ、できる事がある。

私はこの第2条を見るたびに、当時起案された際の藤岡支部長の想いが蘇り、自分にも重ね、「ああ良いなあ」と胸が熱くなるのです。今コロナ禍で、ご自身やご家族、お仕事なども大変な状況にあり、人との交流が少なくなっている現在だから、なおさらそう思います。

藤岡支部長から引き継がれた小川支部長（現 相談役 昭和35年卒）は、その母校への貢献を実践されました。平成26年3月、高校図書館へ小川支部長自ら選び推薦文をまとめられた自然科学系書籍50冊を寄贈されたのです。併せて在校生1年生・2年生に「チャンスを掴む」という講演をされました。

そこから「恩師および卒業生の著作・絵画・彫刻・イラスト・写真・書・音楽などの作品」を高校図書館に寄贈する活動に繋がります。

東京支部のみならず、広く府中高校同窓会会員に情報提供を呼び掛け、作品情報を幅広く収集しています。

本部同窓会はこの活動に金銭的な援助をしてくださっており、これは作品の発送費用に充て、支部本会計とは別に管理しております。

おかげさまで今回は右記の7作品を寄贈する事ができました。

引き続きご協力を何卒よろしくお願いいたします。

名簿・広報担当 長谷川陽一 昭和57年卒

寄贈は年に1度、事前に学校とのやりとりを経て、毎年9月末頃に実施しています。窓口は総務・企画担当の50年卒 小田昌一幹事です。

ご自身や身の回りに、著者や作品情報をお持ちの方がおられましたら、どうかお知らせください。

連絡先：sodasoda005@gmail.com（総務・企画担当 小田昌一 昭和50年卒）

令和4年（2022年）寄贈作品一覧

著者	書名	出版社	発行年	価格	卒業年	著者紹介
戸田静雄	追悼句集 癌と友達	自費出版	1998	非売品	昭和36年	東京品川区生まれ。千葉商科大学中退後、三菱重工業（株）糸崎製作所入社。同社退職後、同社関連会社や法務局に勤務。現在は、中小企業の産業支援としての品質管理コーディネーター（経産省、福山市、NPO）や「尾道観光大志」として活躍。妻（高15回生）の2度の乳癌、22年わたる日々の闘病生活を振り返って詠んでまとめた本書（追悼句集）を自費出版。 俳号「戸田志づを」としての多くの受賞俳句や「幸せを運ぶフクロウ画家」としての作品も多数
津森祐一	食べ物エッセイ 食にあそぶ	ポトス出版	2021	1,400	昭和40年	府中市荒谷町出身。早稲田大学卒業後、住友重機械工業（株）入社。2008年同社退職後、大の趣味である「食・料理」をテーマにしたエッセイを知人・友人に配信を開始。退職10年を記念して「食べ物エッセイ 味の向こうに」を刊行。 2021年10月古希を記念して本書を刊行
石岡実代子	石岡実代子句集	中国新聞社事業出版センター	2021	非売品	昭和43年	府中市出口町出身 母の『あんた、何か書いてみ』の声に励まされ中国新聞の「こだま欄」に祖母と母を介護をする中での喜びを俳句にして投稿。中国新聞に掲載されたことが一層の励みとなり100句以上を作句。 （人生の区切りとして本書を出版）
松岡信宏	アラブ・イスラム・中東用語事典	成甲書房	2014	2,530	昭和51年	島根大学文理学部卒業。1981年1月から2021年3月まで外務省に勤務。外務省入省後アラビア語を学び、いくつものアラブ諸国に勤務する傍ら数々のミステリー・スポットを実際に訪問する。 現地情報満載の用語辞典を出版
松岡信宏	世界のオカルト遺産調べてきました	彩図社	2022	1,540	昭和51年	筆名：羽仁 礼 筆名を用いてUFO超常現象関係の著作を出版。2022年現在羽仁礼の筆名で、月刊誌『ムー』に「ムーペディア」を連載中
編者 羽仁 礼 （松岡信宏）	極孔神仮説で神話や遺跡の謎が解ける	ヒカルランド	2022	2,200	昭和51年	ADIOS（超常現象の懐疑的調査のための会）の創設委員、一般社団法人 超常現象研究センター主任研究員
佐藤真澄	安佐動物公園の挑戦	静山社	2022	1,540	昭和57年	都内短大卒業後、上場企業に就職するも「何かが違う」気がしてきて半年後に退職、その後、海外放浪の旅に出て自分を見つめ直した結果、「目指すところは物書き」にたどり着く。編集プロダクション勤務で修行後、25歳でフリーランスに。以後、各種雑誌に著名人のインタビューをはじめとする人物ルポや旅記事、社会レポートなどを執筆。最近では自著の執筆活動に注力

次の東京支部総会・懇親会は令和5年5月です

日時：5月27日土曜日 受付13時30分～

新型コロナウイルス感染状況次第で内容の変更・中止する場合がございます

開会：14時から

出欠のご連絡は3月末迄に、同封のハガキ、又はメール・お電話でお願い致します

会費：5,000円 ※学生は無料、介護者や同伴のお
子さまも無料です。

会場：学士会館 千代田区神田錦町3-28 (右図)

※アルコール・おつまみ・ソフトドリンク

お昼ご飯をすませてお越し下さい。

※アトラクション

昭和63年卒 樋口 誠さんによるミニコンサート



演者ごあいさつ

音楽部出身の樋口誠と申します。
皆様いかがお過ごしでしょうか。
私の所属するオーケストラでは、ほとんどコ
ロナ前の状況に戻り活動しています。来年5月
の同窓会では、久しぶりに皆様に演奏をお届け
できることになり、今からとても楽しみに
しています。

同窓会でしか聴けない曲を始め、バラエティ
に富んだプログラムをお楽しみ頂きたいと思
います。

読売日本交響楽団 コントラバス奏者
樋口 誠(63年卒)



発行人：長谷川陽一
57年卒 (高33回生)

名簿・広報担当副幹事長
連絡先

yo_hase@mac.com

080-4001-8024

〒112-0011

文京区千石2-44-16

東京支部のホームページは
こちらから↓



訃報

謹んで哀悼の意
を表します。

26年卒

森田 祥一様

29年卒

武田 隆夫様

55年卒

松井 誠様

3年ぶりにカープ観戦同好会も始動！

7月16日 東京ドームで行われた巨人戦に、カープ観戦同好会15名が参戦。11-4で圧勝しました。
終了後有志はNEKIで二次会。(満塁ホームランを打った長野選手、巨人に帰ってもガンバレ～！)



同好会へのお問い合
わせなどはこちら↓

担当：田辺 智也

(平成3年卒)

hiroshima.fuchu.hs.carp@
gmail.com